

**小児期に被ばくを受けた原爆被爆者における老年期の神経認知機能<sup>1</sup>への放射線影響：  
放射線影響研究所成人健康調査<sup>2</sup>**

この研究では、放影研の主要な調査プログラムの一つである成人健康調査（AHS）を基に、これまで十分に研究されていないテーマである、小児期に低線量もしくは中線量の被ばくを受けた原爆被爆者における、老年期の神経認知機能への放射線の影響について調査しました。その結果、小児期に被ばくを受けた原爆被爆者における老年期の神経認知機能について、高齢は神経認知機能低下と関連していましたが、放射線被ばくとの関連性は明らかではありませんでした。今後、長期にわたる神経認知機能への、小児期における放射線被ばくの影響を評価するため、さらなる研究が必要であると思われます。

**【注釈】**

**<sup>1</sup>神経認知機能：**

脳内の神経回路を走る電気信号がもたらすコミュニケーション（言葉や文字などによる意思疎通）に基づいて思考する能力のことです。今回の研究では記憶、見当識（場所や時間）、計算、言語、判断などの知的能力や行動、感情に関する領域の状態を検討しています。

**<sup>2</sup>成人健康調査（AHS）：**

2年ごとの健康診断を中心とした臨床調査プログラムです。この調査は、原爆放射線による病気の発症などの長期にわたる健康影響を調べることを目的に、1958年から行われ、約21,000人が参加しています。

[doi.org/10.1667/RADE-21-00122.1](https://doi.org/10.1667/RADE-21-00122.1)

\*doi（digital object identifiers）とは、ほとんどのデジタル情報に与えられた、コンテンツ（論文や作品等）独自の不変番号で、インターネットの検索を通じてオンライン資料を特定するために用いられます。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は専門の学術誌に掲載された論文をご覧ください。